

和文抄録

性別による違いから見た中学校及び高等学校における武道授業の楽しさ

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119053
氏名：関 伸夫

【目的】

本研究は、中学校及び高等学校体育における武道授業の楽しさを明らかにし（調査Ⅰ）、男女別に武道授業の楽しさを比較すること（調査Ⅱ）を目的とした。

【方法】

調査Ⅰは、2つの種目から大学生3名を選出してブレインストーミングを行い、武道指導者4名がKJ法により楽しさを40個のカテゴリに分類し、質問項目を作成した。調査Ⅱは、中学校及び高等学校で武道授業を受講した大学1年生1,013名（男711名、女302名）を対象に、質問項目について5段階で回答を求めた。

【結果】

因子分析の結果、4因子24項目が抽出された。第1因子「自己成長による楽しさ」、第2因子「実施環境による楽しさ」、第3因子「文化特性による楽しさ」、第4因子「競技構造による楽しさ」の存在が明らかになった。「自己成長」「実施環境」「競技構造」で性別による差が確認され、女子は男子よりも楽しさを感じていないことが明らかになった。項目得点の男女比較では、剣道よりも柔道で多くの項目に性別による差が確認され、両種目とも女子は男子よりも楽しさを感じていないことが明らかになった。

【結論】

中学校及び高等学校における武道授業の楽しさについては、4因子24項目からなることが明らかになった。そして、女子は男子よりも武道授業に楽しさを感じていないことが明らかになった。